2019 年 12 月 17 日

各 位

スパークス・グループ株式会社
代表取締役社長 グループ CEO 阿部 修平
(コード8739 東証第一部)

「未来創生２号ファンド」酪農・畜産向け IoT のファームノートホールディングス社への投資実行

―ディープラーニング、エッジ AI、自律 AI の開発を加速―

スパークス・グループ株式会社（以下、スパークスと表記）は、2018 年 7 月に設立した「未来創生 2 号ファンド」が、酪農・畜産向け IoT ソリューション提供を手掛ける株式会社ファームノートホールディングス（本社：北海道帯広市、代表取締役：小林晋也。以下、ファームノート HD 社と表記）に対する投資（金額は非開示）を実行しましたので、お知らせいたします。ファームノート HD 社は今回の調達資金を活用し、AI（人工知能）開発による製品・サービスの機能拡充、体制強化、研究開発の推進、新規事業の立ち上げを行います。

■投資先企業の概要

ファームノート HD 社は、子会社の株式会社ファームノートを通じて、従来よりクラウド牛群管理システム「Farmnote」の拡販および機能強化に努めると共に「Internet of Animals（※1）」を実現する牛向けウェアラブルデバイス「Farmnote Color」を開発、事業展開してきました。結果、ユーザー数は 4,000 生産者、契約頭数 38 万頭（参考：日本の飼養頭数約 380 万頭。出典:農林水産省 平成 31 年畜産統計調査）まで成長しています。

（※1）経済動物をセンサーでインターネットにつなげ、人の目を介さずに人工知能により動物の状態を検知し、最適な飼養管理を実現する技術。ファームノートが提唱

■「未来創生（１号）ファンド」及び「未来創生 2 号ファンド」の概要

未来創生（１号）ファンドはスパークスを運営者とし、トヨタ自動車株式会社、株式会社三井住友銀行を加えた 3 社による総額約 135 億円の出資により、2015 年 11 月より運用を開始しました。最終的には、上記 3 社を加えた計 20 社からの出資を受けました。「知能化技術」「ロボティクス」「水素社会実現に資する技術」を中核技術と位置づけ、それらの分野の革新技術を持つ企業、またはプロジェクトを対象に米国、英国、イスラエル、シンガポール、日本の約 50 社に投資しました。2018 年下半期には、既存投資領域 3 分野に加え、新たに「電動化」、「新素材」を投資対象とした未来創生 2 号ファンドの運用を開始しました。2019 年 11 月末時点の運用資産残高は、1 号と 2 号あわせて、1,093 億円となっています。

未来創生ファンドの投資実績：https://mirai.sparx.co.jp/investment/

■ 本件に関するお問い合わせ先
スパークス・グループ株式会社 広報室
TEL : 03-6711-9100 / FAX : 03-6711-9101
pr_media@sparxgroup.com